

Mémoire 2024

第85回 優駿牝馬 (オークス) (GI)



実力を発揮し桜の女王へ チェルヴィニア

素質馬が鮮やかに巻き返し、桜の雪辱を果たした。

1番人気の桜花賞馬ステレンボッシュに続く2番人気は、その桜花賞で13着と大敗を喫したチェルヴィニアとなった。2歳秋にアルテミスSを完勝するも、阪神ジュベナイルフィリーズは脚部不安で回避。休み明け、初の関西遠征となった桜花賞では、直線でまったく伸びず不本意な結果に終わっていた。

ヴァントシュティレとショウナンマヌエラが2頭で後続を大きく離して飛ばし、レースは1000m 57秒7のハイペースとなった。縦長の馬群は3~4コーナーで一気に詰まり、横に広がって直線へ。道中は離れた3番手を追走してきたランスオブクイーンが先頭に立つと、ここに外からクイーンC勝ちのクイーンズウォーク、内からはステレンボッシュが襲いかかる。しかし、これらをまとめて飲み込むようにさらに外から伸びてきたのがチェルヴィニアだった。

二冠を目指し残り200mの手前で先頭に立ったステレンボッシュを大きなストライドで追い詰めたチェルヴィニアは、最後は半馬身前に出てゴール。2013年メイショウマンボ以来、史上5頭目となる桜花賞

2桁着順からの逆転とともに、2016年にクビ差2着に敗れた母チェッキーノの雪辱も果たしてみせた。

C.ルメール騎手は3月30日のドバイターフで落馬して骨折。桜花賞にも乗れず、2週前に復帰してこれが最初のGI勝ち。ゴール後は何度もガッツポーズを繰り返し、インタビューの第一声では「ただいま」と嬉しそうな声でファンに挨拶した。

木村哲也調教師は「去年厩舎に来て坂路を上ったとき、今まで管理した馬の中でもトップクラスの馬だと感じました」と、その素質をずっと信じていたことを強調。心からほっとした表情で、見事に馬を立て直したスタッフへの労いの言葉を述べていた。

第85回優駿牝馬 (オークス) (GI)

5/19 東京競馬場 2400m(芝・左) 曇・良 18頭									
着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位	
1	チェルヴィニア	牝3	55	C.ルメール	木村 哲也	2:24.0	②	12	9 9 10
2	ステレンボッシュ	牝3	55	戸崎 圭太	国枝 栄	1/2	①	9	9 9 12
3	ライトバック	牝3	55	坂井 瑠星	茶木 太樹	1 3/4	③	15	14 13 15
4	クイーンズウォーク	牝3	55	川田 将雅	中内田充正	クビ	⑤	5	5 15 4
5	ランスオブクイーン	牝3	55	横山 和生	奥村 豊	ハナ	④	3	3 3 2

チェルヴィニア
栄光の蹄跡

12

ハービンジャー [109]
チェルヴィニア
チェッキーノ(キングカメハメハ)
2021.2.3 生 安平・ノーザンファーム



牝3
鹿
55
C.ルメール
1979.5.20生 B型
南サンデーレーシング
木村 哲也(美浦)

2024.4.7 阪神
桜花賞 GI
18ト 4人 13(99)
55%。B.ムルザバエフ
芝1600良 1:33.4

2023.10.28 東京
アルテミスSGⅢ
10ト 1人 1(109)
55%。C.ルメール
芝1600良 1:33.6

2023.8.12 新潟
未 勝 利
10ト 1人 1(—)
55%。C.ルメール
芝1800良 1:46.9